

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0114112626		
法人名	医療法人社団美生会釧路第一病院		
事業所名	グループホームさくら苑		
所在地	〒084-0906 釧路市鳥取大通4丁目10-8 (電話) 0154-51-2121		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年1月21日	評価確定日	平成22年2月12日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 13.68人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~45,000 円	その他の経費(月額)	15,000~29,000 円
敷金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,479 円		

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.2歳	最低	65歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団美生会釧路第一病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、医療機関が運営法人となっており、グループホームができることを考え、職員の協力を得ながら医療機関から支援を受ける体制を整備していることが、家族の不安を取り除き安心につながっている。管理者と職員の関係も良く、相互の意志疎通を図りながら利用者本位の生活とケアを目指している。職員の厚生面も充実している。居室にはトイレや流し台を備えておりプライバシーが守られ、家族の来訪時にも気兼ねなく過せるようになっていいる。事業所に閉じこもることなく、家族に協力を得ながら積極的に外出を支援し家族との絆を大切し、医療面、健康面、安全面などで利用者が不安なく過ごせるよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で改善課題が無かった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者及び職員は自己評価と外部評価の意義を理解し職員全員で取り組み、それぞれの気づきについて話し合っている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。会議では、利用者の健康状態、日常生活、事業所の行事予定、自己評価、外部評価等を報告し、助言を得ている。会議で出た意見は職員会議で話し合い改善する等サービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎月、便りを出し、近況を報告している。また、家族の来訪が多くその都度、家族に職員が対応し意見、苦情、不安を言いやすい雰囲気作りに努め、意見、要望があれば速やかに会議で話し合い改善に取り組み、家族にも報告している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の行事や会議に参加している。また、そのほかにも地区の花火大会や神社祭り、障害者施設祭り等に積極的に参加している。事業所が行事を開催し、地域住民に家族と一緒に参加するよう呼びかけ、交流に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が話し合い地域密着型として地域と共に暮らし、地域に貢献する事業所を目指すことなどを盛り込んだ理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット会議の中で理念の具体化について確認し合いケアの統一を図り、日々のケア実践に取り組んでいる。また、事業所内に理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の会議に参加し事業所の事業案内を回覧に入れてもらうなど、事業所への理解も広がっている。清掃活動にも参加するなど、地元の人々と交流することに努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は自己評価と外部評価への意義を理解し運営推進会議に結果を報告し、評価を活かしユニット会議等で全職員で話し合い情報を共有し改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は平成21年度は2ヶ月に1度開催している。会議では、事業計画や利用者の生活状況、外部評価等を報告し、意見や助言を得ている。また、会議内容を記録し、改善点があれば会議で話し合い、全職員で共有し改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの呼びかけで地域のグループホームとともにサービス向上に向けた取り組みを行うなど、市との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、行事案内や利用者の生活の様子を記載した便りを発行し、家族に送付している。また、病院受診など利用者に病状変化があればその都度、連絡をとり報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際には、気軽に話し合える雰囲気づくりに心がけている。相談や苦情は真摯に受けとめ早急に会議を開き、解決に向けて取り組んでいる。運営推進会議にも家族が出席している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別な理由が無い限り、原則として職員異動は行わないようにしている。、全ユニットで職員の往来が頻繁にあり、利用者と馴染みの関係を構築している。職員の異動があった時は、利用者のダメージにつながる事が無いよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は職員を積極的に研修や講習会等に参加させている。研修後、報告の場を持ち全職員で共有し、働きながらトレーニングを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	釧根地域グループホーム協議会を通じての相互交流や勉強会、交換研修などの活動を通じて意見交換を行い、サービスの質の向上を図るように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が利用者宅を何度か訪問したり、家族や本人が事業所を見学するなど、事業所の雰囲気徐々に馴染んでいけるような関係を構築するように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式での一人ひとりの生活歴を活かし、できることは本人が行うよう支援している。また、畑仕事は土興しから収穫まで、利用者から学びながら一緒に作業を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら利用者の生活歴や趣味等を把握しながら、時には家族の協力を得て希望に沿えるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当者がスタッフ会議で職員と話し合いを重ね、家族からの希望を聞き介護支援専門員と相談しながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行い、利用者に変化が生じた場合は、本人や家族、医療関係者等と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援や本人の希望がある場合、外食やドライブ、買い物、美容院など希望が実現できるように支援をしてる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療法人にかかりつけ医が多く、常に利用者の受診や状態変化についても適切な医療が受けられるよう支援している。母体の医療法人以外のかかりつけ医がいる利用者にも定期的に受診できるように支援をしている。また、事業所に看護職員が常勤しているので、健康管理は毎日午前中に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から家族と話し合いながら、慎重に対応をしている。利用者の状態の変化に応じて家族や医師と話し合いの場を設け、事業所として必要な支援を行っている。また、終末期に向けたマニュアルを作り職員全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの排泄パターンを把握し、ほかの利用者に気づかれないように配慮し、プライバシーを損ねるような言葉遣いや対応をしていない。記録は事務所で行い、取り扱いにも気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースを大切に、散歩や、家族との外出など、本人の希望に沿って支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活から利用者一人ひとりの嗜好を把握し、献立作りや買い物と一緒にしながらできることを職員と一緒にやっている。事業所の菜園で収穫した野菜を使った料理を作るなど、食事を楽しめるように支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は利用者に合わせて入浴支援を行っている。利用者の体調変化に合わせて、無理せずにシャワー浴にするなど、希望に沿った支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式の利用者の生活歴を把握し、畑仕事や花壇の水やり、新聞受け等の役割や買い物や散歩、近郊のドライブ等の楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物、ドライブ、外食、花火大会、神社祭り等、その日の希望に沿って戸外に出かけられるように支援をしている。		
hitjyoutekini					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が鍵をかけることへの弊害を理解しており、利用者の状況や行動を把握し安全に暮らせるよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を設置し、年2回消防署職員と訓練を行っている。また、町内会回覧で住民に参加を呼びかけ協力が得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に変化ある時は、水分や食事量などのデータを細かく記録し管理している。献立や栄養バランスは法人の栄養士の指導を受けながら、一人ひとりの健康状態に合わせた量、調理の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は利用者の体調に合わせて配置替えをしながら、利用者が使いやすいように工夫をしている。リビングや廊下には長椅子を置き、和室もあるので、利用者はお気に入りの場所できつろいでいる。ベランダには畑や花壇、ベンチがあり、暖かい日は日向ぼっこをするなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使用していた家具を持ち込んでいる。仏壇を持ち込み、僧侶がお経をあげに来る利用者もいるなど、本人が居心地よく過ごせるように配慮をしている。		

※  は、重点項目。